

オンサイトPPAの太陽光発電を利用開始

私大PPAでは国内最大級、消費電力の約32%を賄う



本館屋上の発電装置も更新



キャンパス奥にある拡張地に発電装置を新設

本事業は西松建設が本館屋上および拡張地に自家消費型（オンサイト）太陽光発電システムを設置し、発電された電力の全量を本学が購入する。契約期間は20年。発電総容量は約1・4MW、年間想定発電量は約2142MWhとなり、本学の年間消費電力量の約32%に相当する。これによりCO2を年間約940t削減できる。発電状況は、本館入口脇に設置されたモニターによってリアルタイムで確認できる。

6月20日、埼玉キャンパスにおいて柳澤章理事長、竹内貞雄学長、西松建設の細川雅一社長ほか関係者が出席し、利用開始式ならびに記者発表が執り行われた。柳澤理事長は本事業の契機について「省エネ、カーボン

6月20日、埼玉キャンパスにおいて柳澤章理事長、竹内貞雄学長、西松建設の細川雅一社長ほか関係者が出席し、利用開始式ならびに記者発表が執り行われた。柳澤理事長は本事業の契機について「省エネ、カーボン



利用開始式

本学は5月1日より埼玉キャンパスにおいて、PPA（電力購入契約）モデルを活用した太陽光発電システムによる再生可能エネルギー電気の使用を開始した。私立大学におけるPPA事業としては、国内最大級の規模となる。

スマート農業技術の開発・供給に関する事業に採択

本学が代表機関を務める研究課題

本学が代表機関を務める研究課題「受粉ドローンと害虫防除ロボットのための自動制御技術の開発と普及」が、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の「スマート農業技術の開発・供給に関する事業」に採択された。

本研究は電気情報工学科の平栗健史教授（代表研究者）と清水博幸准教授が主導し他大学、農業法人、企業、自治体、金融機関と共同で実施する。研究期間は本年度から2027年度の3年間となっている。

本研究は電気情報工学科の平栗健史教授（代表研究者）と清水博幸准教授が主導し他大学、農業法人、企業、自治体、金融機関と共同で実施する。研究期間は本年度から2027年度の3年間となっている。

本研究は電気情報工学科の平栗健史教授（代表研究者）と清水博幸准教授が主導し他大学、農業法人、企業、自治体、金融機関と共同で実施する。研究期間は本年度から2027年度の3年間となっている。



受粉作業を行うドローン（イメージ）

また、こうした技術的な研究と並行して自治体や金融機関、農業法人と連携しながら、実際に現場で運用できるシステムを整え、埼玉県を中心に国内外の地域に広げていく体制を構築する。

本学は昨年4月、「工学と農学の融合による新たな研究開発分野の創出を目指す」という竹内学長の構想により「スマート農業セン

本学は昨年4月、「工学と農学の融合による新たな研究開発分野の創出を目指す」という竹内学長の構想により「スマート農業セン

本学は昨年4月、「工学と農学の融合による新たな研究開発分野の創出を目指す」という竹内学長の構想により「スマート農業セン

学園創立記念日 教職員祝賀会

学園創立120周年に向け 一致団結した学園運営を目指す

学園創立118周年を記念する教職員祝賀会が6月28日、埼玉キャンパスのダイニングホールにおいて開催された。法人役員・職員、大学・付属中学・高校の教職員のほか、後援会や同窓会など外郭団体関係者を含め約280名が出席した。



祝賀会で学園関係者が親睦を深めた

学園創立記念日の由来
学園賛歌を紹介
最初に柳澤章理事長が登壇し、学園創立記念日の制定の由来と開学当時のキャンパスの様子を語った。そして教職員、学園関係者に対し「時代が移り、人も移り、いろいろと状況が変化中、それぞれの立場で学園の運営に尽力いただき感謝している」と労った。さらに「同じ船に乗っている仲間として心を一つにし、この機会に親睦を深め、協力して学園の運営に努めてほしい」と求めた。

柳澤理事長は続いて学園賛歌「我が学舎に栄光

あれ」の制作に関するエピソードを語り「本日のような学園行事の際には全員で歌うようにしたい」と提案。出席者全員

で賛歌を合唱した。人財育成力で高評価
学生を成長させる大学へ
続いて竹内貞雄学長が本学を取り巻く環境と今後の展望について説明し

た。前提として大学進学者の今後の推移を示し、2040年からの急激な減少に備える必要があるとともに、「大学のブランド力が問われることに

2025年度省エネ・節エネへの取り組み

空調機器の更新による高効率化など エネルギー使用量6割削減を目指す

昨年度の省エネ実績は、温対法における埼玉県地球温暖化対策推進条例のCO2排出量削減目標（基準値7450t・CO2/年の22%削減）に対し、39・1%削減（昨年比7%削減）を達成した。また、省エネ法の原油換算エネルギー削減目標値（ベンチマーク指標で0・555以下）に対し、0・487となりこれも達成した。さらに、本年度より埼玉県地球温暖化対策推進条例のCO2排出量削減目標が第4期計画に入り、削減量が基準値比の50%に見直され、更なる省エネ活動が必要となり、本学では基準値59%

削減の自主基準を設け、本年度より導入されたPPA電力（右上に関連記事）の有効利用はもとより、資源・エネルギー使用管理部会を中心に、次の省エネ・節エネ活動に取り組むこととした。①省エネポスターによる啓発活動②空調の中間期完全停止③外気温温度による熱源運転制御④クールビズの励行⑤授業の休み時間などの教室照明・空調機の停止を実施する。なお、感染症防止の観点から、引き続き換気設備の運転は停止しない。

本年度は、昨年度以上のエネルギー使用量削減を達成すべく、部会では省エネ改善策として、W10棟の照明器具のLED化に加え、経年劣化が進んでいると主張し、危機感を共有した。さらに、日経CAREER発行「就職力ランキング」において本学が各カテゴリーで上位にランクされていることを示し「人財育成力という観点で見れば、極めて高い評価を得ている」と強調した。そして「この実績をふまえて『学生を成長させる大学』をキャッチフレーズとして募集活動を強化していきたい」と語った。

真面目な教育運営に努め人柄を育てる教育を推進
駒場中学校・高校の大塚勝之校長は「普通科専門になった今『真面目でなければいい教育はできない』という想いで教育運営を進めている」と説明。入試広報施設の新設、保健室のリニューアル、大学への進学実績などを報告し、特に中学校の出願数が東京・神奈川県で2番だったことに驚いたと述べた。最後に「これからも人柄を育てる教育を推進していきたい」と締め括った。



省エネ推進を学内各所に掲示
本学では地球温暖化対策として、クールビズを推進しています。ご協力とご協力をお願いします。クールビズ期間 5月1日～9月30日
本学にお越しの際は、クールビズを推進しています。ご協力をお願いします。クールビズ期間 5月1日～9月30日
本学にお越しの際は、クールビズを推進しています。ご協力をお願いします。クールビズ期間 5月1日～9月30日

入試・学生募集関連情報

高校教員対象入試説明会を開催

5月23日、高校教員を対象とした入試説明会をキャンパスツアーを実施した。その後の説明会では竹内学長が大学の近況や高大連携事業について説明。続いて学生2名が高校時代から現在の学習・研究設備を紹介する。



竹内学長による大学の近況報告



個別相談ブース

休憩を挟み、入試課より本年度の入試概要を説明した。終了後には希望者に対して、5号館2階フーニングセンターで学科・学群教員および入試課員との個別相談を行った。多くの高校教員がブースを訪れ、活発な意見交換が行われた。

6月8日には、高校生・受験生・保護者を対象としたオープンキャンパス(以下OC)を開催。工学の総合大学としての特長を活かし、全学科・コースで体験型プログラムを展開した。今年度からは各回にテーマを設けて内容を構成、進路選択の一助となるよう工夫したプログラムを実施している。学生主体の運営で「研究紹介」「キャンパスツアー」「大学生とのお茶会」など多彩な企画を通じて参加者と交流し、好評を博した。

9月20日には入試直前の進学相談会を開催する。模擬面接や入試相談を通して、生徒一人ひとりの進路選択を後押しする機会とする。

9月20日には入試直前の進学相談会を開催する。模擬面接や入試相談を通して、生徒一人ひとりの進路選択を後押しする機会とする。

オープンキャンパス

夢中が見つかる!

8/23(土) 24(日)

10:00開始(受付9:30~)

面接対策講座、大学・学科紹介、キャンパスツアー、研究室紹介、個別進学相談、無料ランチ体験 ほか

AI社会実装の未来と技術経営

専門職大学院だより

大学院技術経営研究科・教授 岡本和也

2025年、AIは「生成AI」から自律的に行動する「AIEジェント」さらに現実世界で動作する「フィジカル(物理AI)」へと進化しつつある。創造性と実行力が融合することでAIは「考えるだけでなく動く存在」となり、AIが設計した建築プランをフィジカルAIが建設する未来も現実味を帯びてきた。この進化の鍵となるのが「身体性」という概念である。AIが身体機能を持ち環境と相互作用することで、人間

に近い知能を発揮できることされる。倉庫ロボット「Proteus」や介護支援ロボット「Pepper for Care」はその代表例であり、AIは「見る・聞く・動く・感じる」能力を備え、教育、医療、製造、介護など多様な分野で人間と共存するパートナーとして期待されている。

こうした技術の急速な進化と社会との調和を図るため、日本では2025年5月28日に「AI推進法(通称)」が成立した。この法律はAIの研究

専門職大学院 オープンキャンパス

パネルディスカッション 説明会
模擬授業 等の実施を予定しています

2025 **8/30(土) 10/11(土)** 2026 **12/6(土) 1/31(土)**

〈オープンキャンパスと同日に開催〉
中小企業診断士登録養成課程説明会

お問い合わせ先
日本工業大学 専門職大学院
TEL.03-3511-7591 Mail: mot@kanda.nit.ac.jp

地域別教育懇談会

日本工業大学後援会が主催する「地域別教育懇談会」では、お子様の成績、学生生活、就職などについて、保護者の皆様が大学教員に個別にご相談いただけます。

茨城県支部 9月6日(土)/支部会場

千葉県支部 9月7日(日)/支部会場

福島県支部 9月13日(土)/支部会場

群馬県支部 9月13日(土)/支部会場

蔵王支部 9月14日(日)/支部会場

北陸支部 9月14日(日)/支部会場

近県(埼玉・東京・神奈川) 9月28日(日)/大学会場

近県以外 10月5日(日)/大学会場

学園の未来を切り拓く みらい募金

寄付金は4つの事業で活用しています。ご協力をお願いいたします。

- 奨学金の制度・拡充
- 施設・設備の拡充
- 教育・研究の推進
- その他各事業の推進

詳細・お申込

日本工業大学大学院 一般入学試験・社会人特別選抜

◆大学院工学研究科(博士前期課程・博士後期課程)

■2026年度 入試日程

	日程			
	出願期間	面接試験	合格発表	手続締切
一次募集	2025年9月16日~9月24日	10月2日	10月10日	2026年1月28日
二次募集	2026年1月30日~2月5日	2月12日	2月16日	3月6日

お問合せ先: 教務部教務課 大学院入試係
TEL 0480-33-7507 E-mail: kyomu@nit.ac.jp

2026年度入試概要

◆=出願期間 ●=選考方法

特別選抜(単願) 単願 奨学金
特別奨学生として1年目の学費から100万円または50万円を免除。特待生には2年目以降も学費免除等の支援。
◆ 9/1~ 10/3 ● 書類審査、面接

特別選抜(教員志望) 単願 奨学金
高等学校または中学校の教員を目指す方が対象。1年目の学費から100万円または50万円を免除。特待生には2年目以降も学費免除等の支援。
◆ 9/1~ 10/3 ● 書類審査、面接

特別選抜(併願) 併願可 奨学金
国公立大学推薦入試合格発表後(1月以降)に納入可能。成績優秀者には奨学金を給付。
◆ 9/1~ 10/3 ● 書類審査、面接

総合型選抜(課題実践型) 併願可 奨学金
課題への取り組みを通じて学科に対する適性、工学を学ぶための基礎的知識などを総合的に評価。
◆ 9/1~ 10/3 ● 書類審査、課題、プレゼンテーション、面接

総合型選抜(体験講義型) 併願可 奨学金
工学を学ぶための基礎力や理解力を測ることを目的として、体験講義を利用した試験と面接で評価。
◆【第1期】9/1~ 10/3 【第2期】11/11~ 12/10 ● 書類審査、体験講義(ワークシート作成または実技を含む)の理解度、面接

総合型選抜(活動アピール型) 併願可 奨学金
高校生活や部活動、または私生活等で主体的に活動してきた経験をアピールしたい方が対象。
◆【第1期】9/1~ 10/3 【第2期】12/11~ 1/20 ● 書類審査、面接

総合型選抜(基礎学力型) 併願可 奨学金
工学を学ぶための基礎学力を重視して評価。筆記試験は数学、英語の2教科。
◆ 10/4~ 11/10 ● 書類審査、筆記試験(数学・英語)、面接

学校推薦型選抜(指定校) 単願 奨学金
指定校にもとづき、高等学校長の推薦を受けて出願する入試。入学後のプレースメントテスト成績優秀者には指定校奨学金を給付。
◆ 11/1~ 11/10 ● 書類審査、面接

学校推薦型選抜(公募制) 併願可 奨学金
高等学校長の推薦を受けて出願する。工学を学ぶための基礎学力や本学での学修意欲を総合的に評価。
◆【第1期】11/1~ 11/10 【第2期】11/11~ 12/10 ● 書類審査、面接

一般選抜 併願可 奨学金
筆記試験は数学、理科(物理または化学)または国語、英語の3教科。試験会場は本学、地方合わせて8カ所。
◆【A】12/11~ 1/20 【B】1/21~ 2/12 ● 書類審査、筆記試験

一般選抜英語外部試験利用 併願可 奨学金
本学の英語試験に代えて外部試験のスコアを利用。当日試験は数学、理科(物理または化学)または国語の2教科。試験問題は一般選抜Bと同一。
◆ 1/21~ 2/12 ● 書類審査、筆記試験

3月入試 併願可
入学の動機、目的意識と学修意欲が明確な方が対象。文章をまとめる力などを総合的に評価。
◆ 2/13~ 3/2 ● 書類審査、小論文、面接

共通テスト利用 併願可 奨学金
共通テストの数学、英語の2教科と、理科・国語・情報から1教科を利用。遠方の方でも受験しやすく、一般選抜との併願も可能。
◆【A】12/11~ 1/30 【B】1/31~ 2/12 【C】2/13~ 3/5 ● 書類審査、共通テストの試験結果

入試の詳細は募集要項をご覧ください

工業技術博物館後援会総会・特別講演会開催

灯台関連機器の歴史的変遷と価値

5月28日、本学学友会館にて、工業技術博物館後援会の2025年度総会および特別講演会が開催された。



特別講演講師の白川研究官

総会に先立ち、後援会会長の花木義磨氏（元オークマ株式会社代表取締役社長）より、後援会運営への会員の支援と博物館職員による活発な活動への謝意が述べられた。続いて、清水博物館館長からも、昨年度の各種実施事業への支援に対する感謝の挨拶があった。

後援会定時総会

本年の後援会定時総会は、5月25日に本学学友会館にて開催された。委任状を含め1377名が出席し、事業報告、決算報告、事業計画、予算案、理事・監事選出の各議案の慎重審議が行われ、すべての議案が承認された。新執行部は次の通り。

工友会定時総会

4月14日、一般社団法人日本工業大学工友会の定時総会が開催された。総会では、2024年度事業・収支報告、監査報告、2025年度事業計画案・収支予算案、理事および監事の選任についての議案が提出され、審議の結果、すべての議案が承認された。

先立ち、竹内学長の挨拶があった。特別講演会では、海上保安試験研究センターの白川尊史試験研究官が「灯台関連機器の歴史的変遷と日工大博物館への譲渡機器群の歴史的価値」と題し、灯台の役割とその関連機器の歴史の変遷、さらに本年3月に博物館へ譲渡された灯台関連機器の歴史的価値とその意義について、興味深い講演を行った。

その後、知匠会員の称号授与式が執り行われ、花木会長より駒澤大学名誉教授の小林正人氏に称号記が授与された。小林氏は、工作機械をはじめとする機械工業と経済の関係について、多くの優れた研究業績を残していることが紹介された。続いて、特別講演会に

NITEC埼玉産学交流会 創立40周年記念フォーラム

本会は本学の協力のもと、埼玉産業人クラブ会員企業の技術レベル向上、地域産業の発展を目的に1985年に創立された。40周年を迎えた本年7

NITEC株主総会

NITEC株主総会の第58期定時株主総会が5月31日に開催された。はじめに林勇司社長より当期の事業経過と決算内容に関する報告があり、質疑応答を経て、満場一致で承認された。続いて任期満了に伴う取締役の選任が行われ、4名全員（うち重任4

EMS全員大会・環境推進委員会開催

環境活動の方針、目標を全学で共有

5月22日、全教職員及び学生を対象とするEMS「環境マネジメントシステム」全員大会（サステイナブルボード監査委員長 挨拶）が開催された。この大会は、本学が取り組んでいる環境活動に関する方針や目標などを全学で共有



学生環境推進委員会による活動報告

し、意義や目的を確認する場として年度のスタート時に開催されている。一、柳澤理事長（サステイナブルボード監査委員長 挨拶）2001年のISO14001認証取得から全学環境活動の歴史を振り返り、その中で本学法人を中心とした「サステイナブルボード」による外部監査の意義を強調した。普遍的な社会課題である環境問題については、

雨宮本部長が、昨年度の活動成果と今後本学が取り組むカーボンニュートラル戦略やサステイナブルキャンパス推進活動について説明した。続いて学生主体の環境・SDGs活動の取り組みと成果を学生環境推進委員会の学生4名が報告した。

活動が大学研究力やブランド力の向上に繋がるとへの期待が述べられ、大会が閉幕した。

学生がリユース傘を運営

サーキュラーエコノミーの実現に向けた活動「リユース傘プロジェクト」は、遊休傘を活用し、誰でも無料で傘をレンタルできる仕組みで、2022年12月に始まり今年で3年目を迎えた。運用管理を担う学生環境推進委員会では、プロジェクトに賛同・協賛いただいた企業のPRを掲載する広告看板を、リ

ユース傘専用の傘立てに設置する企画を構想中である。今後は、本学学生の就職先企業を中心に協賛を募る予定だ。

リユース傘のシール貼り作業



柳澤理事長の挨拶

コンテストの参加者を募集中!

NITプロダクトデザインコンテスト2025



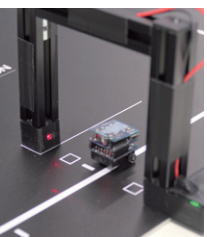
参加登録締切 8/21 表彰式 10/26
高校生対象のデザイン提案コンテスト。オリジナルアイデア、自由、3Dモデリング、3Dプリンタ造形の4部門で、自由な発想に基づく魅力的なプロダクトの提案を期待しています。

作品送付先/お問い合わせ先

NITプロダクトデザインコンテスト事務局
E-mail: pdcontest@nit.ac.jp



第19回 マイクロロボコン高校生大会



申込締切 11/29 競技結果提出締切 1/13
約1インチサイズの小型ロボットによるライトレース競技です。初心者でも参加しやすいネームカード（名刺サイズ）部門も設置しています。今回もオンラインでの開催を予定しています。

エントリー/お問い合わせ先

先進工学部ロボティクス学科
TEL: 0480-33-7716 (学科事務局)
柳橋康博 E-mail: kusihashi@nit.ac.jp



第39回 建築設計競技



提出期限 8/29 入賞発表 9月中旬
建築を学ぶ高校生を対象とした建築設計の腕試しの場、建築学科の教育活動の一環として開催。今回の課題は「宮沢賢治の物語の家」。

作品送付先/お問い合わせ先

建築設計競技委員会
TEL: 0480-33-7676 (入試課)
E-mail: kenchiku-compe@nit.ac.jp

OB・OG便り
鳥人間現役出場の悲願
後輩たちに繋げたい

システム工学科（第33期生／2011年卒業）
日本工業大学
学園情報システム部勤務 甲斐正也さん



在学中、鳥人間コンテストに挑戦したきっかけは、同期友人の「学生のうちに陸・海・空を制覇しよう」という無謀な一言でした。物理体感工房の先生方による熱いご支援のもと、2011年に本学として鳥人間コンテストに“初”出場しましたが、前日の悪天候により機体が破損。やむなく棄権となり、記録は残りませんでした。

その悔しさを糧に卒業後、当時のメンバーを中心に日工大“発”の鳥人間チームを結成。出場部門を滑空機に変更し、本学にゆかりのある日野熊蔵氏が製作した「日野二式号機」をベースに機体を製作して、2017年大会に出場。101.05mを記録し、新人賞である「Fresh Birdman賞」を受賞しました。

今後、学生から新たなチャレンジャーが現れ、本学としての“初”記録を作ってくれることを期待しています。

学生、教員の受賞報告が届きました！

各学会からの受賞が多数報告された。本学の教育研究レベルの高さを示す結果となった。
学生自身の努力、指導教員の熱意に加え、工業系大学の中でも卓越した実験研究設備・施設の充実も寄与している。

電気学会東京支部 優秀論文発表賞

電気電子通信工学科4年（受賞時）
（木村研究室）

仲野 壮

受賞論文名：時間枠制約付き配送計画問題に対するSimulated Annealing を導入したカオス探索法
受賞日：3月6日



電気学会東京支部 優秀論文発表賞

電子情報メディア工学専攻博士前期課程2年（受賞時）（上野研究室）

金澤 祥太

受賞論文名：二硫化モリブデン添加カーボンブラシの摺動特性
受賞日：3月6日



電気学会東京支部 電気学術女性活動奨励賞

電気電子通信工学科4年（受賞時）
（木許研究室）

伊藤 潮里

研究・学業に精励し、電気情報工学科の同年の女子学生の中で優秀な成績を収めた
受賞日：3月31日



電気学会東京支部 電気学術奨励賞

電気電子通信工学科4年（受賞時）
（竹本研究室）

中村 智哉

研究・学業に精励し、電気情報工学科の同年の学生の中で優秀な成績を収めた
受賞日：3月31日



電子情報通信学会 学術奨励賞

電子情報メディア工学専攻博士前期課程1年（受賞時）（平栗研究室）

青山 幸瑠

受賞論文名：異メディアを含む複数同時接続時におけるドローン飛行ハンドオーバー方式の提案
受賞日：3月26日



第48回学生設計優秀作品展 レモン賞／平井政俊賞

建築デザイン学専攻博士前期課程1年
（小川研究室）

尾島 惇聖

受賞論文名：玉川学園いとなみ峠～住宅密集丘陵地域における建築と道の再構築
受賞日：5月5日



日本建築学会 日本建築学会賞（論文）

建築学科

徐 華 教授

受賞論文名：知的生産性及び心理的快適性の向上に資する研究執務空間のレイアウト計画に関する一連の研究
受賞日：5月30日



情報処理学会 学生奨励賞

情報メディア工学科4年（受賞時）
（橋浦研究室）

王 淦

受賞論文名：GPT-4oを用いた単体テストの自動生成手法の初期評価
受賞日：3月15日



日本機械学会機素潤滑設計部門 功績賞

ロボティクス学科

宮川 豊美 教授

機素潤滑設計分野における学術研究、技術開発および先駆的研究を推進し、同部門および機械工学、工業の発展に多大な功績を残した
受賞日：4月25日



空気調和・衛生工学会 学会賞論文賞（学術論文部門）

建築学科

吉野 一 教授

受賞論文名：空気循環系における動的定常濃度をを用いた換気効率測定法の開発
受賞日：5月15日



卒業生が在學生に 就活のアドバイス

6月5日、社会で活躍する本学卒業生45名を招き、就職活動を控える学部3年生、大学院1年生を主な対象とした「卒業生座談会」を実施した。就職活動の早期化を受け、学生が早い時期から「働くこと」をリアルに感じ、将来のキャリアを考えるきっかけになることを目的に、就職支援課が企画したものである。当日は約470名の学生が参加し、建築系・ものづくり系・ICT系の3部会として、卒業生同士の交流の場を設けた。卒業後わずか数年で大きく成長した姿に教職員が感動する場面もあった。就職支援課では今後も卒業生や企業の協力を得ながら、学生にとって有意義な就職支援を継続していく方針である。



卒業生が在學生に業務内容などを説明

タイで研究、英語修得に奮闘中！

機械システム工学専攻
博士前期課程2年（神研究室所属） 木島 竜さん



ドイステープ寺の前で

木島さんは5月末から5か月間、タイのキングモンクット工科大学トンブリ校（KMUTT）に派遣され、金属板成形法の1つ「絞り加工」の形状改善に関する研究に取り組んでいる。昨年、研究室の留学生と交流する中で英語の必要性を感じるとともに異国文化に興味を抱くようになった。さらには研究室の先輩が同校に派遣されたことで海外研修に興味を持ち、今回の研修に挑んだ。派遣から1か月（取材時）の近況を紹介したい。

研究については日本語が達者なティップマス教授の指導により、順調に進んでいるようだ。7月の国際会議PRESM2025に向けて研究発表の準備を進めているところであった。同校には他の留学生と交流する場もあり、これも貴重な経験になっている。

一方、学生寮の環境や設備不足など、生活面では苦労しているようだ。しかしこれも「タイの生活や文化を肌で体感できる機会」とポジティブに捉えながら、少しずつ改善を試みている。

木島さんは将来的に大学教員を目指しており、今回の体験全てがその糧になると確信し日々奮闘している。「夢を叶えるためには乗り越えなければならない壁がある。この機会に英語スキルを向上させ、学会発表や論文作成などに活かしていきたい」と意欲的だ。派遣期間の10月末までに彼がどんなことを体験し、どのように成長していくか。今後の活躍にも注目したい。

ホームカミングデー



詳細・申込

10月25日（土）14:00

懇親会をダイニングホールで開催
懐かしく、新しい埼玉キャンパスにご学友、ご家族とお越しください！



灯台関連機器



ボイラー技士を取得した竹島さん

工業技術博物館が 有名テレビ番組で紹介

5月26日、NHKの情報番組「午後LIVE ニュースーン」に登場。「この施設にあるお宝のマシンを動かす」をテーマに数分の中継が3回放送された。レポーターが上原学芸員の説明を聞きながら刺繍ミシン、灯台関連機器、SLなどの動態保存展示物を巡り、クイズを交えて紹介した。

8月2日にはテレビ東京の情報バラエティ番組「アド街ック天国」に登場。定期的に行っているSLの有火運転の様子などが放送された。この中で、電気電子通信工学科4年の竹島駿さんがSLの運転を目指してボイラー技士の国家資格を取得し、現在練習中であることも紹介された。

宮代町
だより
255号



まつりは愛だ！
宮代町民まつり

宮代の夏の風物詩、第42回「宮代町民まつり」が開催されます。昼は子ども向けのイベント、夜は進修太鼓の演奏に加え、流し踊り、みこし・山車の巡行が行われます。宮代の熱いまつりをぜひ体感してください！
日時：8月23日、24日
10時～20時30分
会場：進修館周辺
問合せ：地域支援課 地域振興担当（コミュニティセンター・進修館）04803333846